

国語 (B日程)

(解答はすべて解答题紙に記入しなさい)

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部省略した部分があります。)

¹ 失敗自体と、きみの人間性は別物です。

失敗は、「きみはダメだ」ということではありません。「このやり方ではダメだよ」と教えてくれているのです。

失敗したからといって、自分を否定する必要はないんです。

「自分」と「行動」とを切り離して考える。

「自分が悪い」と思うと「自分はダメだ」と思ってしまうやすいですが、「この行動が悪い」のならば「次はやらない」ように気をつければいいだけです。

自分という人格の問題としてとらえるのではなく、「どこがよくなかったのか」「どうすればリカバーできる(取り戻せる)か」を具体的に考える。

現実を変えるための方法に集中することで、感情の波に揉まれる状況から自分を引きはがす。うまくいかなかったことにクヨクヨしているようなヒマをなくしてしまうのです。

失敗後にやるべきことは、「これからの行動」に集中することです。

「どこがどうダメだったのか?」を検証し、やり方を修正して、2 する。

起きてしまったことを「心配」するのではなく、これからやるべきことを「工夫」することに力を注ぐ。

やり直してうまくいったら、前の失敗はもう失敗ではなくなりません。失敗の経験が活かされたということですから、それも成功するために必要なことだった、ということになるわけです。

再チャレンジしても失敗したら?

もちろんそういうこともあります。

³ うまくいかなかったら、さらに修正して、もう一度やってみればいいだけ。

うまくいくようになるまで、「トライ&エラー (trial and error)」を重ねるのみ。

トライ&エラーとは、成功への階段を一步ずつ上ることです。

A、エラーがあってもがっかりすることはなくて、一歩前に進めたことを喜んでいいのです。

「あの失敗のおかげで、間違いに気づけた」

「修正してやり直したら、うまくいった」

こういう経験を積んで、「失敗は必ず挽回できるもの」と思えるようになることが必要なのです。

失敗を新たな成功体験で「上書き」していくんですね。

これができる、「失敗しても大丈夫」という自信がきます。
1 回失敗しただけで「傷ついた、こんな思いはもうイヤだ」ということになると、そのイヤな思いをぬぐい取ることができません。だから、引きずってしまうのです。

再チャレンジして、できるようになっていく喜び、うまくいったときの快感を味わうことで、失敗のネガティブな記憶を

4 4 にしてしまえばいい。

兼好法師は『徒然草』でこう言っています。芸能を身につけようとする人が、「うまくなってから人前でやろう」と思っている、一芸も身につけられない。へたでも、うまい人にまじり、笑われても恥じないで稽古をつづける人は、やがて上手になっていく。

「失敗したら、取り返しがつかない……」と思いついてる人がいますが、取り返しがつかないような失敗とは「命」にかかわることだけです。

失敗して、死んでしまったらもうやり直せない。

自分の命にしても、他人の命にしても、命を危険にさらすことはしてはいけません、それ以外のことはやり直せます。

生きていて、前を向いて進むことをあきらめなかったら、何度でもやり直すことができます。

5 とはいえ、同じ失敗をいくらかでもくり返していいということではありませんよ。

同じ失敗をくり返す人は、失敗をきちんと受け入れることができていないのです。

たとえば、遅刻が多いとか、約束に遅れることが多い人、いますよね。

決まったルールが守れない、人との約束を守れないことは、失態です。どんな理由があるにしても、守れないことには「非」があります。

それを「非」として認められる人は、謝って、次は気をつけようとしています。

B 「非」、遅れたことを自分の「非」と認めていない人は、できなかったことの言い訳をします。

先ほど、「自分」と「行動」を切り離して考えよう、と言いましたが、それを責任逃れのために使ってはいけないんです。

自分のどこに「非」があったのかを素直に認めることで、どこがいけなかったのか、どう修正したらいいのかかわるので、

社会的に大事な地位についていながら、よく失言をしてしまう人がいます。不注意な言葉で、人を傷つけたり不快にさせたりしてしまふ。

何度も失言をするクセのある人の問題点は、自分の発言のどこがいけないのかの本質を理解していないところにあります。

「自分には、一方的な視点で人を傷つけるものの考え方をするクセがある」ということを自覚し、そのクセを直そうという努力をしないと、また同じような失言をしてしまいます。「よくないクセだから直そう」と心がければ直せますが、その意識がなければ、そのクセはいつまでたっても直りません。

せっかく失敗が教えてくれていることを活かすことができていない、学習していないということです。

「過ちて改めざる、是れを過ちと謂う」

『論語』にある、孔子の有名な言葉です。

間違えること自体は問題ではない、間違いに気づきながらやり方を改めようとしないうことこそが本当の過ちなのだ、と孔子先生は言っています。

失敗があっても、「よくないところを改めて、やり直す」ことができればいい。

間違いを改め、修正を利かせていく能力があればいいんです。

失敗しないようにする能力なんていりません。

(出典 齋藤孝「本当の「心の強さ」ってなんだろう? 一生を支える折れないメンタルのつくり方」誠文堂新光社による)

問一

A・Bに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア AⅡそして BⅡすると

イ AⅡだから BⅡしかし

ウ AⅡただ BⅡまた

エ AⅡけれども BⅡつまり

オ AⅡところでは BⅡたとえば

問二

〃線a「間違いを改め、修正を利かせていく」とありますが、次の空欄にそれぞれ適当な漢数字を入れ、「何回失敗しても、それに負けず、また勇気を奮い起こすこと」を意味する言葉にしなさい。

転び 起き

問三

―線1「失敗自体と、きみの人間性は別物です」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 失敗はそれ自体が悪い行動であり、誰が失敗するかの問題ではないということ。

イ 失敗は準備が十分ではないから起こるのであり、意欲の問題ではないということ。

ウ 失敗は誰もが必ず経験するものであり、個人の能力の問題ではないということ。

エ 失敗はネガティブな思考から生じるものであり、行動力の問題ではないということ。

オ 失敗はやり方が悪くて起きたということであり、人格の問題ではないということ。

問四

2に入る言葉を本文中から六字で抜き出しなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問五

―線3「うまくいくようになるまで、『トライ&エラー (trial and error)』を重ねる」とありますが、筆者がそうすることをすすめるのはなぜですか。六十字以内で答えなさい。

問六

4に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 台無し イ いいわけ ウ 帳消し エ まぼろし オ 思い出

問七

―線5「同じ失敗をくり返す人」とは、どのような人ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の悪いクセについて自覚がある人。

イ 「自分」と「行動」を切り離して考える人。

ウ 失敗した理由を考えて、修正しようとする人。

エ 自分の「非」を認めることができない人。

オ 社会のルールの重要性を分かっていない人。

問八

本文の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 1回失敗しただけで傷ついてやめてしまうと、その失敗を引きずってしまふ。

イ 兼好法師は、芸術を身につけるには人に笑われる経験が必要だと言っている。

ウ すべての失敗は、あきらめさえしなければ何度でもやり直すことができる。

エ よくないクセを直そうと一つのことに集中すると、様々な部分で失敗が減る。

オ 孔子は、間違えることよりも間違いに気づかないことが問題だと言っている。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ねえ、母さんはどう思う？ 僕、何になつたらいいと思う？

「あたしはねえ、そんなふうになつたらいい。でもね、あんたが人生で一番やりたいと思うことをやる人になりなさい、ってね」

「グローバル経済」とやらに翻弄されたのち、純也さんが故郷に帰ってきたとき、女将さんは息子に尋ねたのだという。それであんなは、人生で一番やりたかつたことはできたの？」と。

答えはNOだった。実は、それをするために帰ってきた、と純也さんは言った。じゃあそれはなんなの、と重ねて尋ねると、純也さんは、このカウンターの上に **B** 音を立てて分厚い包みを置いた。そして言った。

「いままで苦勞をかけて、申し訳なかつた。この金で、この店をもっと大きく、きれいにするよ。そのために帰ってきたんだ。」

1 女将さんは、思い切り息子の頬を打った。そんなあぶく銭を受け取れるもんか、この馬鹿！ そう叫んで。

「だつて情けないでしょ、そんなことが自分の人生で一番やりたかつたことだ、なんて。金で親孝行をしようだなんて、あたしやそんなの、ごめんだよ」

たつたいま我が子の頬を叩いてしまつたかのように、女将さんは悲しげな表情を浮かべた。私は、北寿司の大将がそのエピソードを覚えてくれたときと同じように、右手でそつと自分の片頬を撫でた。

「そのお金は、このさき自分の生活費として使えばいい。それで、彫刻でも楽器でも哲学でも、なんでもいいから、人生で一番したいと思つてたのにいままでできなかったことをやりなさい。そう言つてやつたよ」

人生で一番したいと思つていたのに、いままでできなかったこと。2 2 それを、純也さんはいま、実行しているのだろうか。そしてそれは、女将さんが言うように、「短い家出を繰り返すこと」なのだろうか。

いや、違う。そんなはずはない。純也さんが一番やりたかつたことは……。

「ときに、ライターさん。あんたはどうなの？ 人生で、一番やりたかつたこと、できてる？」

女将さんが、急に矛先をこつちに向けた。私は、つい、苦笑した。

「そうですね、できてるといえば、できてるかな」

「なんなの、それは？」

問われて私は、迷いなく答えた。

「旅することです」

ふうん、と女将さんは、しげしげとまた私の **C** を眺めた。

「なるほど。だから、いい顔してんのね。旅して、おいしいもの食べて、仕事して」

ははっ、と私は笑つた。

「まあ、そういうわけです」

3 「じゃあ、あんたはじゅうぶん、親孝行してるわね」
どきつとした。

まったく、この人はとんでもない方向から球を投げてくる。受け止めるのにはなかなかのテクニクが必要だ。いきなり「親孝行」の三文字を投げつけられて、私は戸惑つてしまった。

「いや、それはないかな。実家にも長いこと帰つてないし、仕送りをしているわけでもないし。どつちかというと、親不孝です」
言いたくはなかつたが、そのとおりだつた。まちがひなく、私は親不孝者だつた。現にこうして北海道まで来ておきながら、故郷の礼文島まで行くことができないのだから。

「いいえ。じゅうぶん親孝行よ」と、女将さんは **D** 言った。

「自分の子供が、人生で一番やりたいことを実行している。親にとつては、それが何よりうれしいことなのよ」
お金持ちになることとか、出世することとか、そんなことじゃなくたつていい。

子供が、自分のやりたいようにやつてる、生きたいように生きてる。それが親には何より一番なんだから。
皺としみのある骨張つた手で菜箸をちょこまかと動かしながら、女将さんはそう言つた。

私は女将さんの顔を見ずに、よく動くその荒れた手を見つめるうちに、不覚にも、涙がこみ上げてきた。
子供、と女将さんは、純也さんのことを呼ぶ。でもその子供は、もう四十代半ば。立派なおじさんなのだ。それなのに、純也さ

んが小学生だった頃とちっとも変わらない愛情で、きっと女将さんはたったひとりの息子を見守っているのだ。その事実が、私の胸を静かに打った。

私は、働き者らしい女将さんの手に、おばあちゃんの、そして母の手を重ね合わせた。

丘の上で、その手を大きく振って、東京へと旅立っていく私を見送ってくれた日。

あの日、遠い青空のさなかで、ちらちらと、いつまでも翻っていたおばあちゃんの手、お母さんの手。

なんという長い時間、私は、私につながる人たちの、あのやつれてささくれだった、けれど美しい手を目にしていないことだろう。

立ち上がって、店を飛び出して、すぐにでもなつかしい故郷の島へ飛んでいきたい気持ち。島を出たあの日から、ほとんど初めて感じた衝動だった。

「どうしたの、ライターさん？ あんた、泣いてんの？」

女将さんに顔をのぞきこまれそうになって、私はあわてておしほりを目に当てた。

「いや、ちよつと、その……ほっけの網焼きの煙が目にしみて」

「いまなんにも焼いてないけど？」

意地悪く言ってから、はい、と新しいおしほりを差し出してくれた。熱いおしほりを顔全体に広げて載せて、じんわりと涙が去っていくのを待った。心の中では、純也さんに少々文句を言いたい気分だ。

(出典 原田マハ『丘上の賢人 旅屋おかえり』集英社による)

問一

□ A・Cに入る体の部位として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 頭 イ 顔 ウ 手 エ 口 オ 目

問二

□ B・Dに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア BⅡすとんと DⅡくどくどと
イ BⅡそつと DⅡすらすらと
ウ BⅡどさつと DⅡしみじみと
エ BⅡがちゃんと DⅡおどおどと
オ BⅡばちんと DⅡがみがみと

問三

〰線 a 「テクニク」と同じ意味の言葉を次の語群から選び、ひらがなを漢字に直して答えなさい。

語群 (「れんしゅう さいのう どりよく ぎじゅつ きより」)

問四

〰線 1 「女将さんは、思い切り息子の頬を打った」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「グローバル経済」の影響でお金が全てだと考えてしまう息子の言葉にいらだちを覚えたから。
イ たまたま手に入れただけのお金を息子が自慢げに見せびらかしたことにあきれてしまったから。
ウ 苦勞して守ってきたお店を息子が小さくてみすばらしいと思っていたと知って悲しかったから。
エ 人生で一番やりたかったことがお金での親孝行だと言う息子が情けなくて目を覚まさせたかったから。
オ 息子には芸術分野で有名になってほしいという自分の期待が裏切られたように感じたから。

問五

〰線 2 「それ」が指す内容を本文中から三十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問六

〰線 3 「どきつとした」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア いい顔をしているとほめられておどろいたから。
イ 思いもよらない言葉をかけられて戸惑ったから。
ウ 仕事の内容を認めてもらえてうれしかったから。
エ 家族に対する思いやりのなさを指摘されたから。
オ 自分のことを他人に語ろうとして緊張したから。

問七——線4「その事実が、私の胸を静かに打った」とありますが、このときの気持ちを六十字以内で説明しなさい。

問八——線5「すぐにでもなつかしい故郷の島へ飛んでいきたい気持ち」とありますが、どのような気持ちですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 故郷にいる祖母や母を思い出し、今すぐにでも会いたいと衝動的に思った。
- イ 一人で生きていけると思い上がったことを、祖母や母に謝りたいと思った。
- ウ 今の自分の生き方をほめてもらえたことで、旅を続けようと改めて思った。
- エ 自分が人生を楽しんでいると伝えて、祖母や母に認めてもらいたいと思った。
- オ これ以上長居すると女将さんに迷惑がかかるのではないかと不安に思った。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① カクギで方針を決定した。
- ② すぐれたスノウを持つ。
- ③ 文章のアヤマリを正す。
- ④ 傘をかす。
- ⑤ 開会をセンゲンする。

問二 次の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 銭湯にみんなで出かけた。
- ② 快く返事をする。
- ③ 今後の方策を立てる。
- ④ 悪事を裁く。
- ⑤ 複雑なパズルを解く。

